日中
おかやま
題字故原田親
No. 1007
2023/10/15
日中友好新聞

柳条湖事件のチラシを配布しました！

9月18日は、今から92年前（1931年）に中国東北部の柳条湖で、旧日本軍が南満州鉄道の一部を爆破した日です。その後旧日本軍は爆破を「中国軍の犯行」とし、中国東北部を軍事占領し、傀儡国家「満州国」を建国しました。

この日から日本は中国への侵略を加速し、次々と戦場を拡大していきます。1941年には真珠湾攻撃により、アメリカとの戦争にまで拡大し、1945年の無条件降伏に至るまで15年間にわたる戦争を続けることになるのです。

この事件のことを忘れないようにと、毎年チラシを配布しています。今年は理事5人が天満屋前での配布に参加しました。

（真田）

河井理事長

真田支部長

小川理事

稲葉理事

太極拳＆章魚焼派対・！

小川涼子

10月1日、岡輝公民館で太極拳とたこ焼きパーティをした。

スポーツの秋！　とはりきった人たち……ではなく、おおよそ食欲の秋でぐぅぐぅ鳴る腹を満たしたい人たちが、10人集まった。

10時開始で太極拳をはじめた。たこ焼きをよりおいしく食べるために、腹をすかせねばならぬ。八段錦、練功18法、簡化24式など、いろいろやった。

太極拳を終えたあとは、買い出しに行き、13時からたこやきパーティである。たこやきのほかに、えび焼きとほたて焼き、それにホットケーキミックスを使ってカステラ焼きも作った。

一度に焼けるのは、鋳物のたこ焼き器で9個×2、電気式のタコ焼き器で18個のあわせて36個だった。

お母さんズに野菜と海鮮を切ってもらい、他のみんなで焼き始めた。お母さんズに切るのをまかせたのは大正解だった。たことか、でかく切ってるなぁ、と思ったけど、出来上がってみたら、ちょうどいい大きさで、すごく美味しかった。私が切ってたらたぶん半分くらいの大きさに刻んでた……。

出来具合は、大成功だった。後に焼いたもののほうが特に、だんだんと焼き方が上手くなっていた。

たくさん食べて大満足の章魚焼派対だった。ただどう考えても運動量より摂取カロリー量が上回っていたので、次回やるとしたら、太極拳での運動量をもっともっと増やそうと思う。

発行所
日本中国友好協会
〒111-0053
東京都台東区浅草橋5-2-9
鈴和ビル5階
電話 03(5830)2140(代)
FAX 03(5830)2141
http://www.jcfa-net.gr.jp
E-mail:nicchu@jcfa-net.gr.jp
振替 00110-1-21176

日中友好協会
岡山支部
〒700-0034
岡山市北区下伊福
西町1-53 民主会館1F
TEL・FAX(086)256-5806

日中友好協会
倉敷支部
〒712-8031
倉敷市福田町浦田2461-41
TEL・FAX(086)435-7800

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhongyouhao.iinaa.net/
メールアドレス
nicchuokayama@yahoo.co.jp

私の引き揚げ体験（その５）

倉敷９条の会　　朝倉彰子

９．　引揚の旅は終わった

津上さんとその友人たちが私たちの荷物を博多港から駅へ、そして一緒に引揚列車に乗ってくれて、岡山駅から津山線に乗り換え、玉柏駅に無事に着くまで私たちを送ってくださったそうです。

出迎えに来てくれた親戚の人は、私たちがリヤカー2台分の荷物を持って帰ってきたこと、「着の身着のまま」という引揚者のイメージと違って、こざっぱりした服装で、駅に降り立ったことに大そう驚いていたそうです。私はそのとき親戚の人が持ってきてくれた白米のおにぎりが最高のごちそうに思え、玉柏駅で大きなおにぎりをすっかり食べてしまいました。

地蔵の集落に入ると、子どもたちが大勢リヤカーについてきました。

家に着くとおじさんが冷やしたスイカをもってきてくれました。

母が弟たちをつれて帰ってきたのは私たちより2ヵ月も過ぎたころでした。

母と7人の子どもたちが、1人として欠けることなく日本に帰ってこられたのは、「奇跡としか言いようがない」と言われました。

敗戦後の撫順で、叔父のおかげで引揚の日まで雨露を凌ぐ家があったこと、母の、子どもたちを守り抜こうという強い意思、決断力、そして母を助ける頼もしい17歳の姉、１５歳の兄、そして１１歳の姉、７歳の姉と、家族が多かったことも幸いしたと思います。

また私たちを守ってくれたソ連の若い５人の兵士たち（イワン、ニコライ、フリージア・・）、

兵士を派遣してくれた撫順駐留のソ連軍、引揚の荷物を運ぶ手押し車を作ってくれた中国の将校さん、途中の収容所で疲れた体を休める場所と食事を提供してくれた人たち、橘丸の船員さん、そして博多上陸のときの津上さんと友人たちの援助・・多くの人たちのおかげだと思います。

１０．１冊の本との出会い

それでもなお、「なぜ多くの日本人が引き揚げてくることができたのか」、疑問でした。

そして私は 2012 年 8 月に発行された新日本出版社の「ぼくらが出会った戦争～漫画家の中国引揚行」で、その理由を知ることができました。

その本の中で、こう記してあります。

長春日本人会は 1945 年 9 月 2 日に東京に電報を打ち、「冬が近い。約 80 万人の難民が南満にひしめいている。食もなく、住むところもなく、金もなく絶体絶命」と訴えた。日本政府は何の手立てもしなかった。

1945 年 9 月 29 日に、中国米軍連合参謀長会議は、中国陸軍総司令部に「東北（満州）日本人遣送（けんそう）計画」を提起、ここから米国、国民党。共産党各代表が協議して遣送工作が実施されることになった。

当時、国民党と共産党両軍の戦闘は続いていたが、停戦令を発動し、日本人の引揚行の際には軍事衝突は停止し、日本人の遣送を妨害したり、遅らせてはならないと。

食事処を設ける、運送人数の確保、船の準備と、船夫の用意、車両の用意など、この取り決めから日本人引揚のために、戦争状態にあった共産党側と国民党側とが、戦闘を中止して引揚行を無事完了させようとする意気込みが伝わってくる。この協定書には内戦より外国人の、しかも昨日まで満州を支配していた日本人の帰国を優先させ無事に完結させようとする中国人の人道精神があふれている。

1946 年 5 月 6 日、葫蘆島からの引揚が始まり、1946 年 12 月 31 日までに 101 万 7549 人が帰国した。遣送費用は 9 億 9873 万４２６１元　、列車総数 1 万 344 1 両、業務に当たった人員は両軍合わせて３千余人。鮮烈な戦闘が展開されている東北部で、戦火を交えている国民党、共産党が、戦闘を一時中断して日本人を順調に、無事故で祖国に送還しようとした事実に胸が熱くなってくる。その人道的な配慮、犠牲的な行為が、短期間に 100 万という日本人が日本に帰ることができた。中米が協力し、国民党、共産党が合作して戦後処理問題を解決した例となった。

この 100 万人の中に、私たち家族がいました。この事実を知って改めて米中両国の人たちに対する感謝の気持ちと、多くの日本人を外国に追いやり、その国の人たちを苦しめ、なお帰国にあたって何の手立ても講じず、もう一度自国民を見殺しにした日本の支配者に対する憤りを禁じえませんでした。

日本人のシベリア抑留にも日本政府の了解があったといいます。ここでも日本政府が日本人を見殺しにし、多くの日本人の命が奪われました。

次回の新聞発送作業は**10月30日(月)午前13時半から**民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

犬飼　池田　河井　真田　竹内

☆2024 年のカレンダーが到着しています。
事務所に置いてあります。

１部　１２００円です。

☆今回も素敵な写真が使われています。
ぜひお買い上げください。

中国百科検定学習会
第 2 回:10 月 15 日（日）14 時～岡輝公民館
第 3 回:11 月 19 日（日）14 時～福祉交流プラザ旭東